園だより
7月号

おひさま

社会福祉法人 太陽の風
おひさまこども園

梅雨が明けると本格的な夏到来。これから更に気温上昇。水遊びや夏の草花・生き物との出会いを楽しみにしている子どもたち。夏ならではの活動を工夫していきます。

異年齢保育のよさ

４月の園便り等において、３～５歳児を縦割りにした異年齢保育（チーム保育）を取り入れ、教え合い・学び合いの体験をさせていくことをお知らせしました。

今回は、本園で考えている異年齢保育のねらい（意義）を紹介します。

1　発達による差を軽減

同年齢保育では、子どもの発達による差（４月と３月生まれでは、発達状況に大きな差）が出るので、早生まれの子どもが劣等感をもつ場合があります。

そこで、異年齢保育では、発達段階の近い子どもを集めたり、グループを構成する子どもの年齢の幅を広げたりできるので、生まれた時期による差を感じにくくなります。

絵具遊び　おもしろいね！

2　交流の幅が拡大

近年、少子化が進み、昔に比べて子ども同士の関わる機会が少なくなったことが懸念されています。また、年齢の違う近所の子どもが公園等で遊ぶ機会も安全面の配慮から減っています。

このような中、異年齢保育をすることによって、様々な年齢の子どもたちがお互いに関わることができます。同年齢や発達段階が同じくらいの友達と遊ぶのに加え、同年齢同士とは違った発見や学びがあります。また、思いやりの心や愛情をもち、身の回りの世話をする姿が見られます。

粘土遊び　楽しいよ！

3　年下の子に対する思いやりや愛情を育む機会

子どもは、自分よりもできないことが多い年下の子に対して、何かを教えようとしたり、危険から守ろうとしたりします。その中で責任感が芽生え、リーダーまたはサブリーダー的な役回りを演じる子どもも自然に現れてきます。

また、自分が遊びたい気持ちを我慢して年下の子におもちゃを譲ったり、大人に代わって靴を履くのを手伝ったりする子も出てきます。

4　年上の子を手本にした挑戦や学び

子どもは、友達の姿を見て学び、自分も取り入れていくことが多々あります。異年齢保育では、年下の子が年上のお兄さん・お姉さんの真似をして園生活の中で自然に学ぶことができます。おもちゃの使い方やごっこ遊びをはじめ、着替えや給食の量の選び方などの生活習慣まで手本となる子どもがいるので、自然に学びの機会になります。

5　社会性や協調性の高まり

異年齢の子どもたちが集まると様々な個性と出会う機会が増えます。また、自分と歳の違う友達と接することになるため、子ども同士の関わりも今までと違った対応が必要になります。その中で「みんなで楽しむにはどうしたらいいのか」と考え、「自分とは違う考えの子もいるんだ」と知るきっかけにもなります。

また、このような以上児同士の異年齢保育に加え、未満児との交流も取り入れ、異年齢活動の幅を広げていきます。

子どもたちの喜びが…

６月２３日から３日間、第１回目の保育参観を実施。保護者の皆様には、ご多用の中、ご出席をいただきまして本当にありがとうございました。

新年度になってからのお子様の成長は、運動会でも見ていただきましたが、クラスでの様子はいかがでしたか？いつも以上に張り切っている子どもたちの姿から、喜びの気持ちが伝わってきました！